

上田都市計画区域のうち、建築基準法の規定に基づくその他の処理施設（産業廃棄物処理施設）の用途に供する敷地の位置について

平成23年9月8日提出
長野県都市計画審議会長

23都第167号
平成23年8月25日

長野県都市計画審議会長 様

長野県知事

上田都市計画区域のうち、建築基準法の規定に基づくその他の処理施設（産業廃棄物処理施設）の用途に供する敷地の位置について

このことについて、上田市長（特定行政庁）から依頼がありましたので、建築基準法第51条ただし書の規定により、次のように審議会に付議します。

上田都市計画区域のうち、建築基準法の規定に基づくその他の処理施設（産業廃棄物処理施設）の用途に供する敷地の位置について

1 申請者

長野県北佐久郡立科町大字宇山 6 2 1 番地
株式会社 塩沢産業 代表取締役 成澤 政男

2 建築場所又は築造場所

上田市下之条字拾貳分 1725-16, -17, -18, -19, -20, -21, -22, -23,
1737-7, -8, -9, -10, -11, -13, -14, -15, -16
上田市下之条字下河原 1739-1, -2, -3, -13, 1740-17, -18, -19, -20

3 建築物もしくは工作物又はその部分の概要

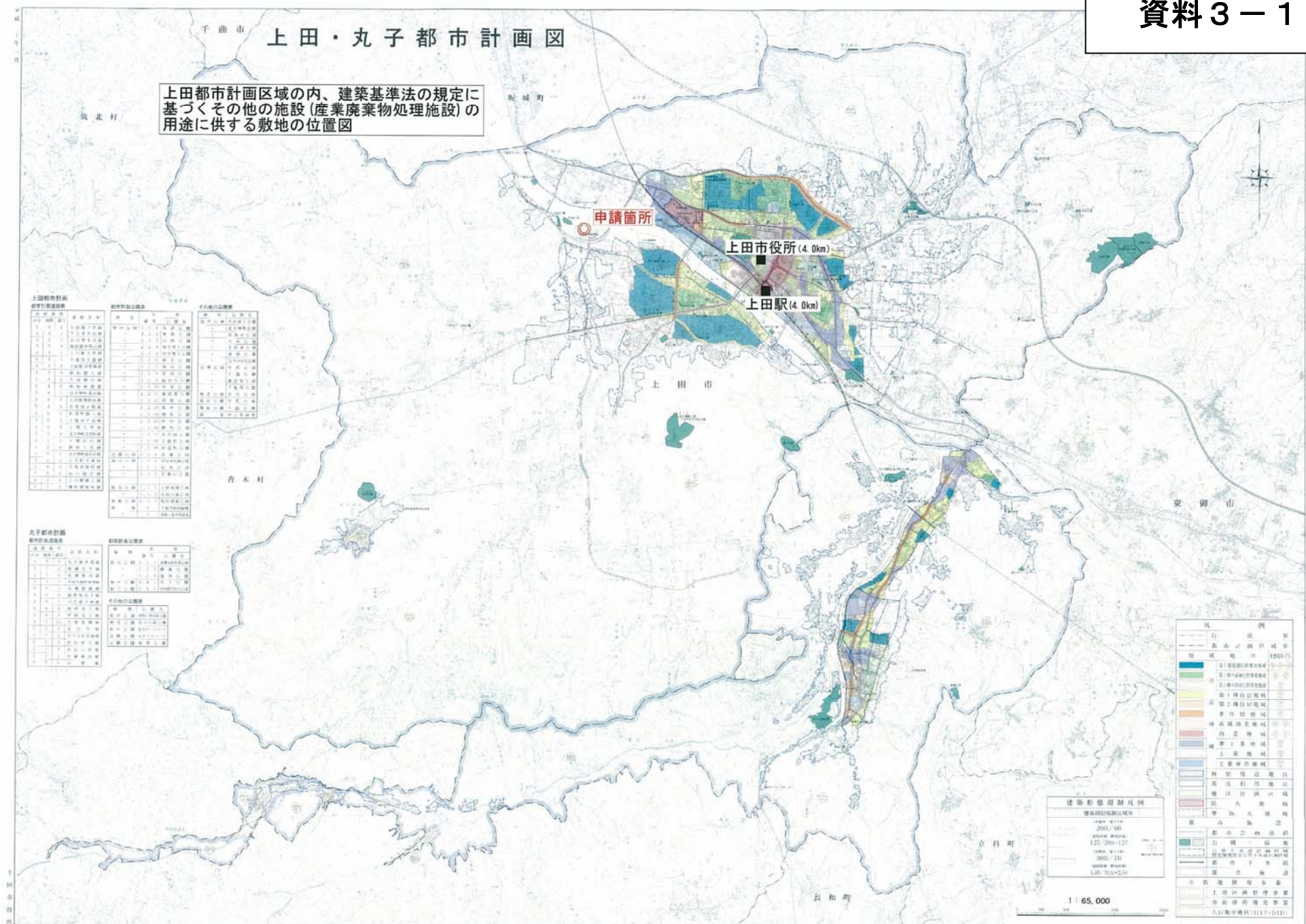
敷地面積：15,584.86 m²
主要用途：産業廃棄物処理施設（中間処理）
工事種別：用途変更
既存建物規模
建築面積：255.28 m²
延べ面積：382.98 m²

処理内容及び処理能力

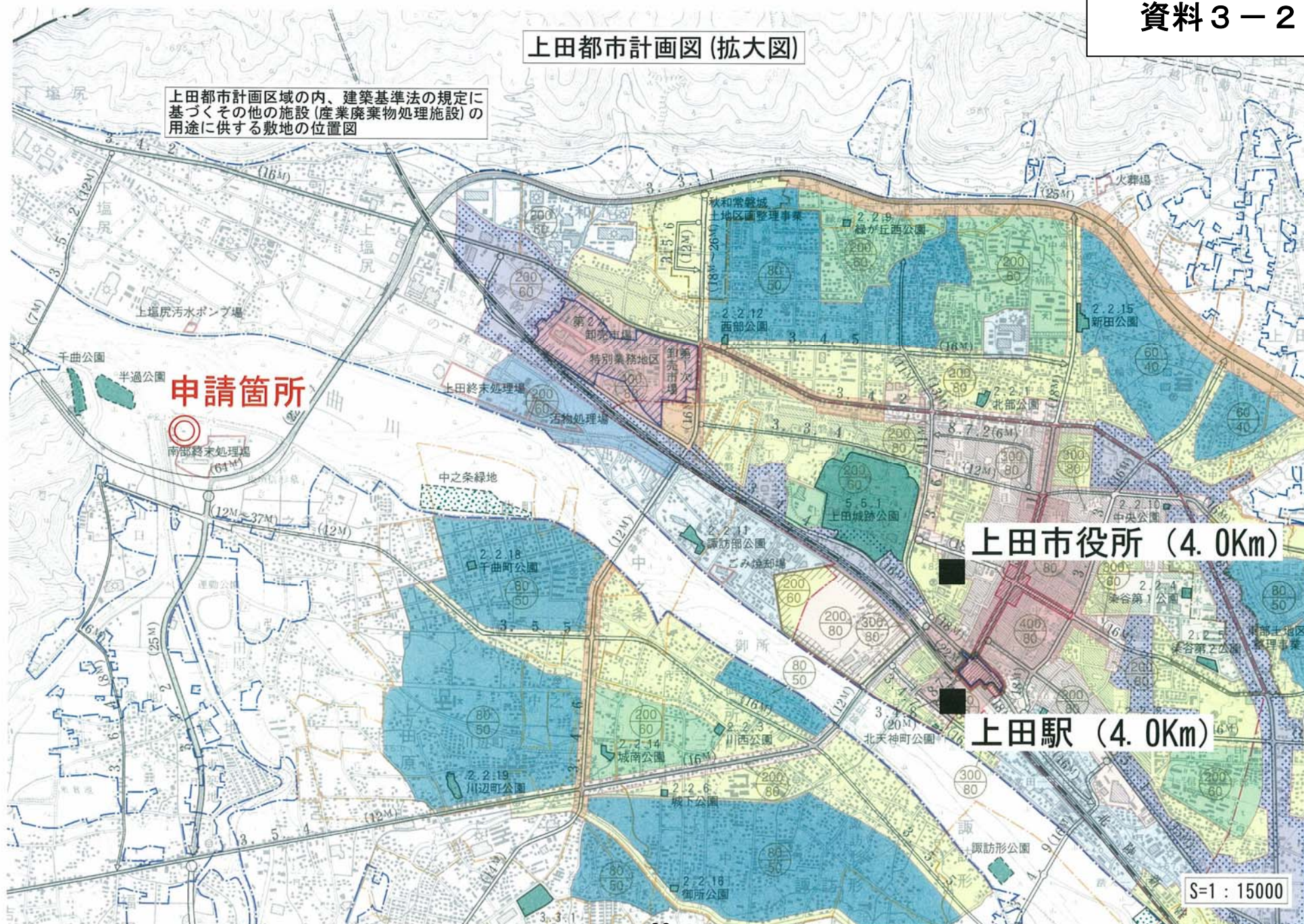
施設名	処理品目	処理能力
破碎施設	・がれき類（廃コンクリートに限る。） ・ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず（コンクリートくずに限る。） 以上いずれも特別管理産業廃棄物を除く。	760 t / 日

理 由

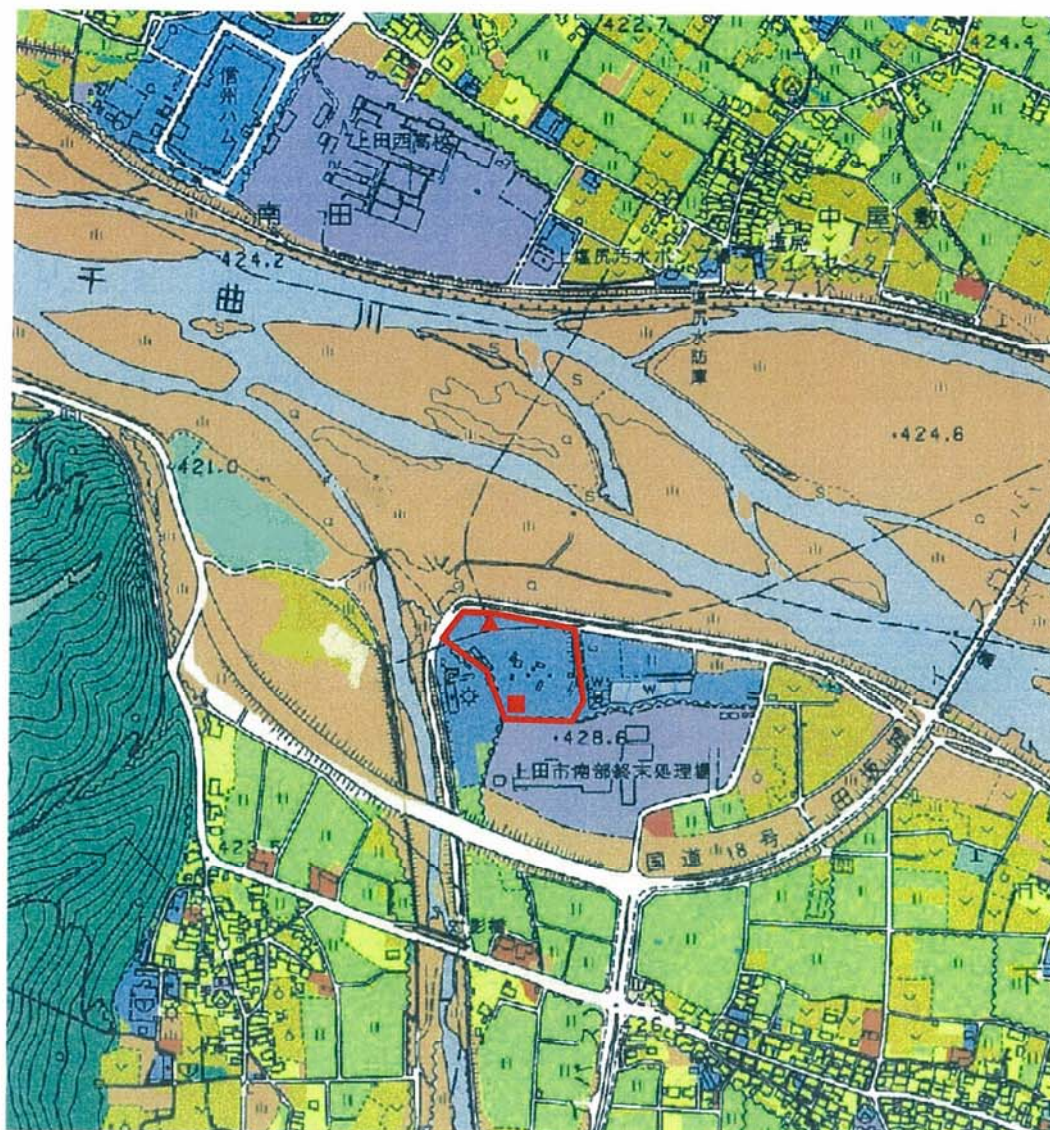
産業廃棄物処理施設の敷地の位置が都市計画上支障がないと判断し、長野県都市計画審議会の審議を経て許可しようとするものである。



上田都市計画図 (拡大図)



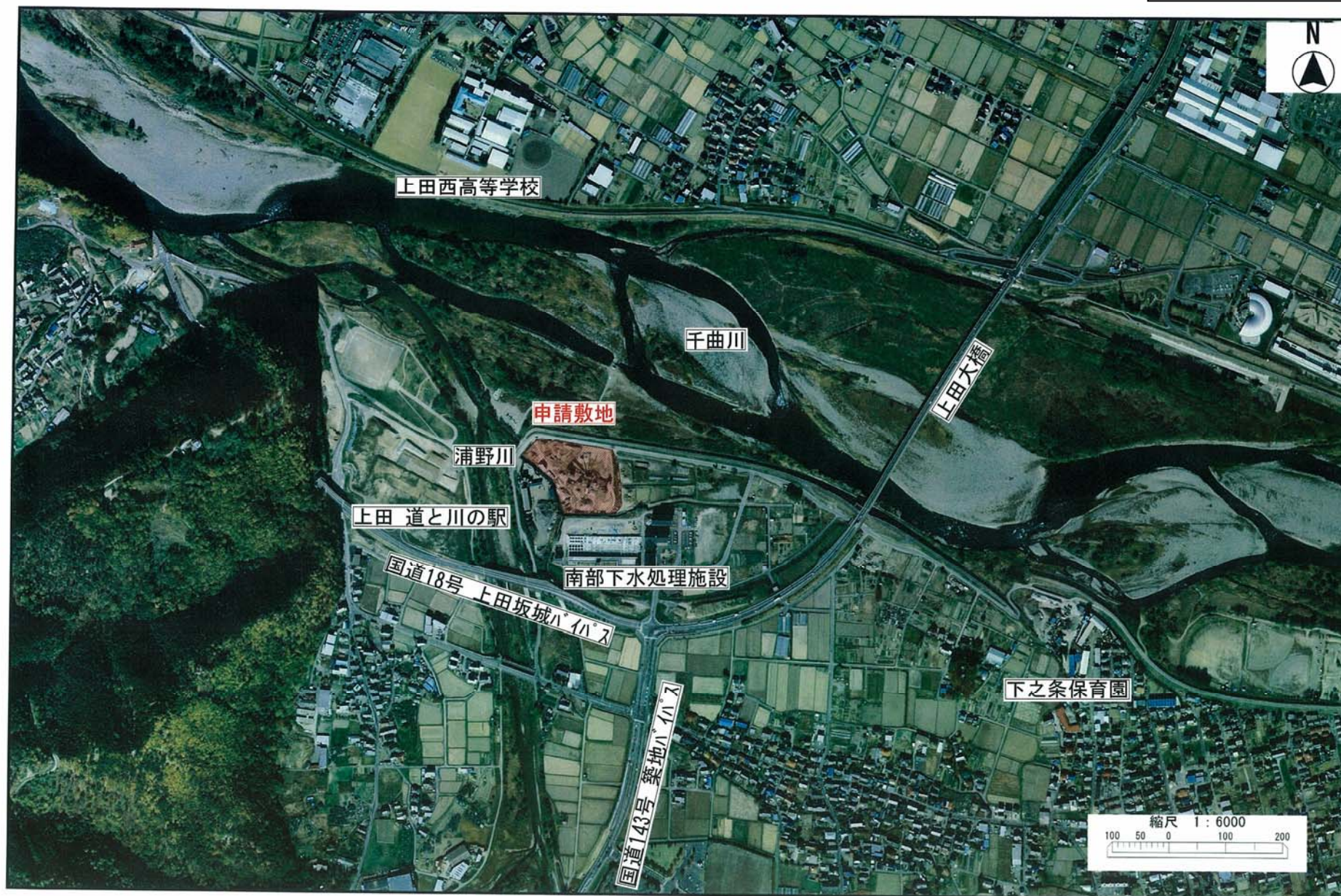
資料 3 - 3



土地利用現況図	
田	
畑	
山林	
水面	
その他の自然地	
住宅用地	
商業用地	
工業用地	
公益施設用地	
道路用地	
交通施設用地	
公共空地	
その他の公的施設用地	
その他の空地	
用途地域指定区域	
都市計画区域	

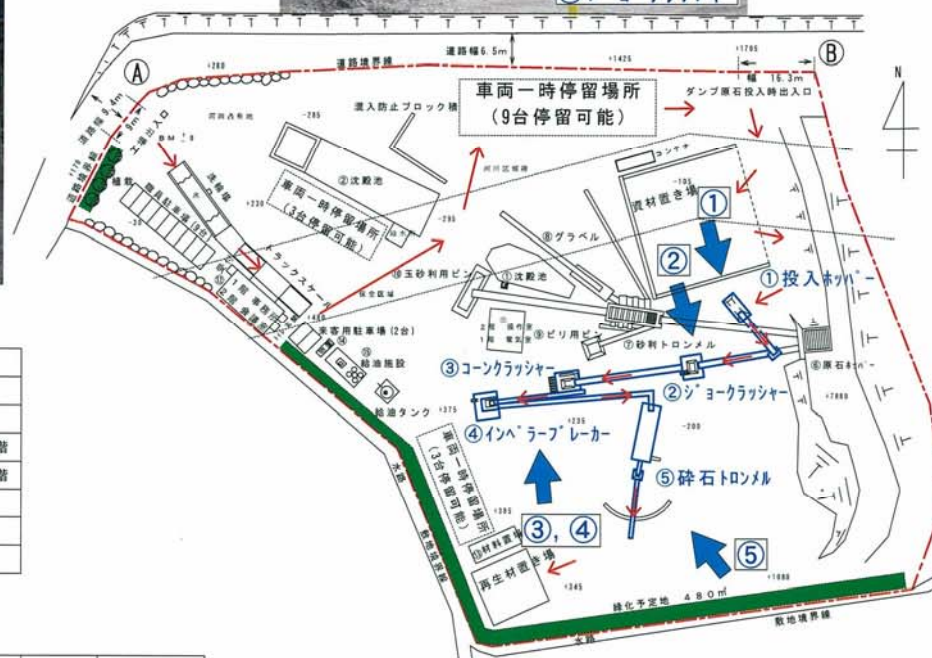
▲ 浮遊粒子状物質測定箇所

■ 振動、騒音測定箇所





資料 3 - 6



建築物 (既存)

番号	名称	建築面積 (㎡)	延べ面積 (㎡)	備考
④	インペラブレーカー (上層)	25.00㎡	25.00㎡	LGS造
⑥	原石ホッパー (上層)	23.03㎡	23.03㎡	LGS造
⑪	電気室	68.25㎡	136.50㎡	LGS造 2階
⑫	事務所	63.12㎡	122.57㎡	LGS造 2階
⑬	材料置き場	40.00㎡	40.00㎡	LGS造
⑭	物置	6.00㎡	6.00㎡	LGS造
⑮	給油施設	29.88㎡	29.88㎡	LGS造
合計		255.28㎡	382.98㎡	

設備

番号	名称	備考 (用途)	粒度	処理能力
①	投入ホッパー	投入口 (大玉・産業廃棄物)	500mm	—
②	ジョークラッシャー	第一次破砕機 (砕石・産業廃棄物用)	250mm	95.0t/h
③	コンクラッシャー	第二次破砕機 (砕石・産業廃棄物用)	100mm	101.9t/h
④	インペラブレーカー	第三次破砕機 (砕石・産業廃棄物用)	40mm	142.8t/h
⑤	砕石トロンメル	選別機 (砕石・産業廃棄物用)	C25・C40	95.0t/h
⑥	原石ホッパー	資材投入口 (砕石・砂利)		
⑦	砂利トロンメル	選別機 (砂利用)		
⑧	グラベル	砂の洗浄・ごみ除去 (砂利用)		
⑨	ピリ用ビン	ピリ保管庫 (砂利用)		
⑩	玉砂利用ビン	玉砂利保管庫 (砂利用)		

砕石上田工場
S = 1 : 1000

項目	判 断 基 準	可 と し た 理 由
A 周囲の 状況	①宅地化、市街化が促進される区域でないこと。	敷地北側には平行し千曲川が流れている。東側は国道を挟み、約400m離れ下之条住宅街、敷地南側には南部下水道処理施設が隣接し、西側には他社プラントが隣接し、浦野川を挟み、上田道と川の駅がある。周辺は、河川保全区域に指定されており、宅地化、市街化が促進される区域ではない。
	②近隣に教育施設、福祉施設が存在しないこと。	教育施設、福祉施設は、半径100m以内にはない。北側に直線距離で約800m離れ上田西高等学校が、南東側に約1.0km離れ下之条保育園がある。いずれの施設も申請地とは千曲川、国道18号上田坂城バypassを挟み離隔している。また搬入経路は通学路とはなっていない。
	③災害発生の恐れが高い区域で、その災害により周辺への2次的被害拡大の恐れがないこと。	敷地は、千曲川から千曲川堤防、市道を挟み位置している。河川区域内であるため、資材置場に関しては北陸地方整備局の指導を受け、河川へ資材の流出がないよう囲いを設置する予定である。敷地は土砂災害警戒区域、土砂災害特別警戒区域外である。また、過去において自然災害の発生はない。
B 環境への 配慮	①廃棄物処理施設の設置許可手続きにおいて許可申請前の「廃棄物の処理関係事務処理要領」に基づく事前審査で支障がないと認められていること。	平成23年6月30日付の事業計画書に対する知事意見書で、事業計画は適当のものと考えられる旨、意見をいただいている。
	②公害関係法令に基づく基準に適合させること。	既施設は、廃掃法の許可申請に伴い、騒音、振動及び粉じん等について環境測定を行い、基準値を満たしている。また年に一度、水質調査等の環境調査も行い、基準値を満たしている。
C 運搬車輛の 周囲地域への 影響	①交通渋滞の発生が見込めないこと。	搬入経路は国道18号上田坂城バypassを経由して、市道2418号線（幅員9.9m）、市道2-19号線（幅員6.5m以上）を利用し、敷地までの距離は約400mあり、渋滞する箇所はない。現在、市道2-19号線の交通量は約150台/日であり、このうち本施設の利用台数は平均60台/日（8台/h）であるが、今回の申請に伴う車輛台数は最大120台/日（15台/h）程度利用が見込まれる。敷地内には15台程度の停留場所が確保されているため、前面道路に停留する恐れがなく、周辺道路の交通渋滞は見込まれない。 本敷地により増加する最大車両台数60台/日は、国道18号上田坂城バypass、国道143号築地バypassの交通量に対し、約0.5%増である。
	②交通安全上支障がないこと。	車輛の出入口については、幅員が9.0m以上確保され障害物もなく見通しがよい。 又、安全性の確保の為、入口には、一時停止標識を設置し社外関係者に対しては、誘導を行なう。
D 景観への 配慮	施設の高さ、大きさに応じて植樹等により、景観に配慮されていること。	敷地面積の3%の植栽を行う計画である。